

ベタテキン (BETATAKIN)

これはナバホ (Navajo) 族の言葉で「岩棚の家」を意味します。それはナバホ 国有記念遺跡が設立された 4ヶ月後の西暦 1909 年の 8 月に白人に発見されました。この「岩棚の家」はナバホ 砂岩に依り外部から見えにくい様に入り組んで造られています。大きさは幅 110メートル、高さ 136メートル、奥行 46メートルにもおよんでいます。そして、このナバホ 族の穴居の基礎となる地層と ケイヤンタ (Kayenta) 砂岩の地層とが交わる地点には、いくつかの泉があり、そこにはたくさんの羊が集まりました。この泉はナバホ 砂岩の多くの細孔を通り、堅いケイヤンタ 砂岩に達して湧き出た水に依って出来たものです。この驚異的現象は古代のベタテキンの住民に良い水に恵まれた場所を提供したばかりではなく、日常生活にも寄与しました。

アナサジ (Anasazi) — これはナバホ 族の言葉で「古代の人」を意味しています。ベタテキンを造った人々に名付けられました。何故 そうなったのかは彼等が文字を持っていなかったので解りませんが、しかし他の多くの種族が自分達の事をこのように呼んでいると同様に「人」と言う事を意味していると思われまゝ。アナサジの子孫達は今日のプエブロ (Pueblo) インディアンとして知られています。

ベタテキンは 13 世紀に建造されましたが、住居に使用されたのは 50 年程にすぎませんでした。彼等は農耕を主としており、ダム等の多種の灌漑設備を作り利用する事に依り、とうもろこし、豆類、かぼちわの他におそらく棉なども作っていました。

農産物を補う為にはアナサジは彼等の祖先がしたと同様に狩りと木の実の採取等も行いました。彼等の獲物は鹿、山羊の他小さな獲物としてはうさぎ、リス、鳥等でした。狩りには弓や矢と共に様々な網やわな等も使われました。

木の実の採取は彼等にとっては良く知られている物のひとつです。何故なら彼等の祖先は何千年にも渡りそれを行って来たからです。小さな木の実でさえも

ピニオンナッツと同様に採取されました。又、種々の果実やキノコ類、ブドウ類等も医療や儀式の為として日常に食する物と同様に採取されました。

13世紀までに彼等は陶器作りの手腕をも発輝させました。昔の灰色の簡素な器から、きれいに彩られた白地に黒、赤地に黒、又は多色のデザインのものにまで発展させました。

又、彼等は陶器作りを始める千年も前から籠を作っていました。陶器作りがさかんになった為には籠作りがすたれた様に思われましたが、しかし少なくとも13世紀を通じて最も入り組んだ編み目で、複雑な形状の美しい籠を豊富に作り上げました。

彼らの宗教生活は目的を人と自然の均衡を保つのに重点を置かれました。彼らの農耕生活は土地と水に非常に密着していたので大変な宗教的エネルギーは豊富な水を、しほは豊富な食物を確保する為に豊かされました。

今日、キバ(Kivas)として知られている儀式的建造物は宗教上の目的の為に建造されました。パタキンは2つのキバが残っています。おそらく、本当はもっとあったのでしょう。というのも、14世紀から20世紀の間にしほは起きた岩くずれの為に多くの家がつぶされたからです。

岩肌に刻まれた絵や、岩肌に書かれた絵文字はアナサジの文字の様なものです。それらは時によっては壁画以上のものであり、しほは神を描写するものや、ある物語を語っています。文字がない為に、この世に古代の人々に届くには全く知られていません。伝説は何世紀にも渡って語りつがれています。今日のホピ(Hopi)・ズニ(Zuni)・プエブロの神話や物語りは何世紀も前に彼らの祖先達に依って語られた物とほとんど同じ物と思われています。

今日、知られている事は考古学者達に依り今まで発見された工芸品・

衣類・食料品・埋葬物・住居等から唯論されたものです。これらの事から、アサジは生活様式を自然に大きく影響された平和な農耕部族であったと唯察されます。彼等の精神的・知的局面はまた知られていないし、これからも決して知られる事はないでしょう。しかし、この局面はこれからも唯論の的となるでしょう。

翻訳：コロラド州立フォート・リス大学

権民成

本岡秀樹

昭和54年5月10日